

会報 90号

発行

日本介護福祉士会静岡県支部  
一般社団法人静岡県介護福祉士会

# Bon くらーじゅ



(フランス語でがんばってね。いい働きをしてねの意)

災害対策  
委員報告

～西日本豪雨災害視察に参加して～

## 「自らの専門性を発揮する場」



昨年7月に発生した西日本豪雨災害の被災現場を災害対策委員の意識向上と発災地との連携を図ることを目的に7月21日、広島県にある地域密着型特別養護老人ホームメヌホット三原を災害対策委員6名で視察させて頂いた。視察にあたり施設長から伺った当時の様子を報告する。

「まさか」施設長の最初の言葉。「まさかそんな大きな災害にならんじゃろう」と誰もが思った。避難指示が出た対象者217万人の中で避難した住民は17,000人程度、たった0.8%だった。今まで、広島では大きな災害はなかったと話されたが、今回は花崗岩の真砂という土壌が災いした。時系列に状況を説明していくと…。

7月6日、ものすごい雨、目の前にある川が氾濫し、支流と本流がぶつかった所から水が溢れてきた。夕食後に念のためと思い、男性職員も多くいたことで1階のご利用者を2階へ避難させた。7月7日の朝、トイレ介助中に窓から前の山を見た瞬間、一気に山が崩れ、施設に向かって土石流が迫ってくるのが見えた。もうだめか！……しかし、土石流は1階を貫通し、2階は無事。(死傷者ゼロ)不幸中の幸いと思えた。

ボランティア支援については、外部からの手助けは非常にありがたい。本来なら新人職員に教えることでさえ大変であると、他法人では外部支援の受入れは行わないところが多い。ボランティア支援に来て頂いても、何をしてもらったらよいのか……わからない。それでも、受け入れをお願いしますと、職員の表情が明らかに変わる！「不安」「休みたい」「しんどい」等、負の感情とマイナスな発言が多く出ていたが、外部支援の方との関わりで前を向くことができた。災害により異常に増加する業務のため、利用者へ関わる時間をとることができないジレンマ、一番、職員が心を痛めていた部分を福祉介護ボランティアは、自らの専門性を発揮して、ご利用者様と関わりご利用者様が笑顔になっていく！福祉災害ボランティアは、災害時の介護ボランティアとして誰もがができる活動ではない。介護について一定の学びがある“介護福祉士”が担わなくて、誰が介護に特化したボランティアをすることができるのか！と思う。助けに来て頂いても指示も出せないと被災者側は思っている。だから、察して動く、気を遣わせないことが大切。これからも仲間を助けることを考える静岡県介護福祉士会であり続けたい。

災害対策委員 坂下 裕

**災害ボランティア大募集!**

「私でも、支えになれるんだ。」

みなさん共に考え行動しませんか!



～災害ボランティア研修を受講して～

「自分に何ができるのであるろう」

■開催日：6月8日(土) 13:00～16:00  
■講 師：橋高 裕行氏  
(公益社団法人広島県介護福祉士会)



子どもの頃から、来ると聞かされていた「東海地震(南海トラフ巨大地震)」。  
いつ来てもおかしくないと思う今だからこそ、準備が必要。その準備の中には、被災地の話しはマスメディアを含めSNSでも発信されているものを見る事も重要ですが、当事者の方の話しを聞く事や直接目の当たりにする事で、それ以上の思いが出てきます。

私は、今まで熊本地震や西日本豪雨・東日本の被災地を見てきました。自然災害を目の当たりにし、その怖さを感じたところです。被災地を訪れたあと、実際に被災した時に「利用者さんを守ることが出来るだろうか」「自分に何が出来るだろうか」という事を常に考えるようになっていきました。

西日本豪雨以降も、さまざまな地域で自然災害が発生しています。この度、西日本で起きた豪雨被害について、広島県介護福祉士会会長橋高氏の話しを聞きました。被災したことで、自分たちの災害に対する意識や物的資源の確保・体制等で課題が見られたこと。また地域の避難所に行政の介入がなく、介護福祉士が1名で頑張っていたという事実も知りました。これらの課題について、西日本で起きたことだからではなく、自事業所や地域で、どのようにして被害を最小限に抑えるのか。実際に被災した際の対応をどうするのかを考え、行動に移していくことが重要であると思いました。中でも外部支援を断ったケースが大半で、その理由の一番が、「来てもらっても何をして良いのか分からない」とのことでした。混乱した現場の中で、手伝いに来て頂いた方に、指示を出すことの大変さは、想像以上かと思えます。そのため、外部支援に対しての対応も施設としては考えていかなければいけないことが分かりました。また、これについては、どの職員であっても対応出来る様に準備をしなければいけないと思いました。

被災地の訪問や体験談を見聞きし、災害対策委員としての活動を活かして、いつか来た時ではなく、いつ来てもOKという体制づくりを目指していきたいと思います。

災害対策委員 鈴木 健太



～ターミナルケア研修を受講して～

「幸せな最期を迎えるにあたり、介護福祉士の力とは」

ある新聞の連載で「多死社会となり『より良い逝き方』を考えるQOD(死の質)」という視点が注目されている」とあり、現在ナーシングホームで終末期ケアをさせていただく私としては、興味深く読みました。疾患も多様になり、対応、配慮すべき点を常に確認し、緩和ケアの声掛け、方法、何を知るべきか、悔いが残らぬようどう配慮すべきか等を考えていた迷いの時期に、白井先生の研修を知り再受講させて頂きました。



研修の目的である「利用者・家族が幸せな最期を迎えるにあたり、介護福祉士としての力をつける。」について、望む死、看取りの為の知識と技術、看取りとターミナルケアの違い、ストレス・グレースケア、死生観等を学びました。グループワークでは多職種の方と、チームケアを実践する為に必要なことをKJ法で取り組みました。他グループの発表にも共感するべきことが多々あり、受講生の現状も何え、表情にも真剣さが伺えました。死についてのイメージは其々違いがあり、日常生活の中に自然に死の教育を受ける機会や家族との死別を体験する場面はなかなかありません。介護職は、終末期を迎える利用者に対して、無理な励ましをせず表情・しぐさ、行動から微かな変化に気づく感性が求められます。苦痛が無く安らかな死を迎えられるような支援は、利用者・家族にも心の準備等を側面から、援助は専門的チームで行います。チームの条件として重要なことは、情報共有、共通したケアの考え方、一致したケア方針のもとでケアにあたることです。介護福祉士は看護職が知る技術と知識を共有することも必要であり、力をつけなければならないと言われました。これこそ求められる介護福祉士像です。

研修最後に、明日から行うことをグループメンバーに発表する場面があり、私は「亡くなられる瞬間までのケアだけではなく、その人らしい生き方をも最期までケアする事を目標にします」と伝えました。自身、高齢者の域に入り、再研修に躊躇しましたが、新たなケアの目標を持つことで迷いも払拭し、有意義な研修となりました。この機会に恵まれたことに感謝します。ありがとうございました。

志太・榛原ブロック 梅原 みつ江



## 記念講演

## テーマ 「介護福祉士としてどう生きるか」

去る5月19日静岡県立大学短期大学部准教授 鈴木俊文先生を講師に定時総会記念講演が開催された。講演を拝聴しながら、「相手の身になって考える、相手と自分を置き替えて考える。」なんと難しいことだろうと気づかされた。日常の仕事や生活の中で、なんと無神経な自分であっただろうと本当に恥ずかしくなり申し訳ない気持ちで一杯になった。

良いと思っていた言葉や行動が、人を酷く傷つけていたこともあるかもしれない。自分ではやさしさのつもりでもそれは思いあがりの押し付けに過ぎなかったのかもしれない。自分の行動をもう一度振り返り、相手の思いをしっかり受け止め、きちんと言葉を使える自分になっていきたいと強く思う。人生の半分を過ぎたわたしでも精進すれば、まだまだ間に合うのではないかと思った。

下田・賀茂ブロック 石田 徳子



## 『実務者研修がスタートしました』

開催日:令和元年7月10日(水) 会場シズウエル

今年度も静岡県介護福祉士会主催の実務者研修がスタートしました。

実務者研修とは、質の高い介護サービスを安定的に提供していくために、基本的な知識・技術の習得を目的とした研修で、2016年度の介護福祉士国家試験から受検要件として実務経験3年以上と『実務者研修』の修了が必須となりました。この背景として、我が国の多様化する介護ニーズなどに対応すべく介護福祉士の資質向上を図る必要性があり、一定の教育課程を経て得た知識や技術が不可欠だと国は考えているからです。

この日、Aコースの受講生25名は少し緊張の眼差しで会場に集まり研修がスタートしました。須田和枝先生の講義では介護福祉士の倫理や専門性、介護過程の全体像を主に知ることを学習目標に1日学びました。特に介護過程ではアセスメントにおけるICFの視点やその構成要素など必要な知識を身につけ、情報を整理する事を個人ワークとグループワークを交えながら講義が進められていきました。受講生は実務経験が数ヶ月の方から3年以上の方まで幅広く、グループワークで受講生同士考えることで、一人一人大きな学びもあったのではないのでしょうか。

2日目以降は介護計画書の作成や介護計画に沿った介護技術を事例、演習形式で理解を深めていきますが、3日目には介護過程の理解度を確認する試験、最終日も事例に沿った介護技術試験もあります。

受講生の皆さん!!実務者研修修了まで介護福祉士会に所属するベテラン講師陣が全面的にサポートします。修了するまで一緒に頑張りましょう。そして、受講生の中で来年1月に介護福祉士国家試験を受験される方は是非とも試験に合格し、晴れて介護福祉士として私たちと共に介護を盛り上げていきましょう!!!

駿東・田方ブロック 小田 明弘

## 介護福祉士として考える

—ファーストステップ研修を受講—

今年度、介護福祉士基本研修とファーストステップ研修を受けようと思ったきっかけは、実務者研修教員講習会の受講でした。これまで、介護福祉士という資格について深く考える機会がありませんでした。介護職としての資格を持っていた方が良いという程度の考えでしたが、講習会を受講していく中で繰り返し、「介護福祉士としてどうしたらよいのか」と問われていくうちに、自分達の仕事の中で、介護福祉士としての在り方について考えながら講義を受けるようになりました。ちょうど仕事をする中で、介護職の専門性とは何かを考えていた時に受けた研修だったので、講義の内容もスッと入ってきて、現場でのとらえ方や、対応方法などについて、どのように伝え共に考えていけばよいのかを、今までと違う視点で深く考える事が出来ました。

実務者研修教員講習会の終了が近づくにつれ、学びたいスイッチが入っていた私は、いっそ認定介護福祉士まで取得しようと思ひ、基本研修、ファーストステップ研修の受講を決めました。年齢的には少し遅いくらいだったのですが、後輩たちへの指導や後輩たちが介護福祉士として介護の仕事にどう取り組むべきなのかを考える場として、研修の受講を勧めるためにも、まずは自分で受けてみようと思ひ受講しました。

ファーストステップ研修はまだ2日目を終えたばかりですが、自分の職場や自分自身のケアについても考えさせられる内容で、興味深く、ワクワクしており今後が楽しみです。ファーストステップ研修を迷われている方、ぜひチャレンジして頂きたいと思ひます。ただ、受講料が高額なため、個人で支払うことは大変だと思ひますので、県の助成や補助制度など何かできないか、対外的に希望を訴えていくことも必要かと思ひています。

富士・富士宮ブロック 今田 喜久  
(介護老人保健施設 ききょうの郷)

## ブロック研修活動報告

熱海・伊東

### 第2回「ノーリフティング・ケア」

日時 7月7日(日) 13:00~16:00 会場:中伊豆リハビリテーションセンター伊東の丘

第1回目の座位移乗に引き続き、第2回目のノーリフティング・ケア研修はスライディングシートを利用したベッド上での移動、車いすでの姿勢の直し方について勉強しました。今回も定員を超える参加者でノーリフティング・ケアに関して、介護職員の関心が非常に高いことが認識できました。本研修の内容は、介護現場で行う回数が多い所作でもあるため、身体的負担軽減の一助になればと考えます。第3回目はノーリフティング・ケアの本丸でもあるリフトの基本操作や、特徴など、実技と共に学べるよう企画中！地域の皆様ぜひご参加ください。

熱海・伊東ブロック 長岡 紀澄



駿東・田方

### 介護技術「口腔内を知ろう」研修

日時 7月12日(金) 19:00~21:00 会場:特別養護老人ホームいづてラス

当日仕事帰りや研修帰りの方々29名が集い、講師に三島市歯科医師会会長栗原先生・歯科衛生士杉山先生をお招きし「介護福祉士として知っておくべき“歯”についての専門的知識を身につける」ことを目的に講義・実技を教えてくださいました。お忙しい先生が前日までかかり私たち介護福祉士が理解できるよう、かみ砕いた内容の研修資料を作成していただき大変感謝しております。

当日はスライド以外にも先生方から様々な“歯”についての知識を学ばせて頂きました。受講生より後日「今後も先生からの研修を受けたい」「今まで実施していたのは「口腔ケア」ではない事が理解できた」「先生がおっしゃったように、先ず自分の歯磨きを見直すことができた」等の感想をいただき、大変有意義な学びの時間となりました。



駿東・田方ブロック 鈴木 都志子

浜松

### 伝える力を養う介護技術「コミュニケーション」研修

日時 7月25日(木) 9:30~16:30 会場:浜松市総合産業展示館北館

利用者の状態やニーズをくみ取り、その支援計画を利用者本人、家族へ説明するにはコミュニケーションが大変重要です。耳を傾け、うなずき、表情やしぐさなどから読み取る力や伝える力を付け、利用者から「この人になら気付いてもらえる。分かってもらえる」と思ってもらえる介護者となることの大切さ。得た情報を言語化して伝えることの難しさなどを、参加者全員が実践を通して学びました。介護のコミュニケーションは「話し上手よりも聞き上手であれ」ですね。

今後、地域共生社会の実現に向けて介護従事者に期待される役割も多岐に及ぶことができます。多職種間の相互の理解や情報の共有を円滑に進めるためにはコミュニケーション技法の学びを深める事が大切になってくることを考えさせられました。

また、本研修を通して会員の皆さんとの情報交換もでき、ブロック活動へ協力頂ける仲間ができたことが何よりの収穫になりました。



浜松ブロック 榎本 利江



# 職場紹介

## 特別養護老人ホーム 蜂ヶ谷園

〒424-0003 静岡市清水区蜂ヶ谷4607



蜂ヶ谷園は2017年（平成29年）3月1日オープンした特別養護老人ホームです。やっと3年目を迎えた新人施設です。私が常々職員に言っていることがあります。それは、社会福祉法人の使命についてです。使命は2つ。1つ目は『目の前にいる入居者様、利用者様の幸せを願い日々の関わりの中で最善を尽くすこと』、2つ目は『地域貢献』やっと満床となり施設の中を充実させていかなくてははいけません、やはり地域の中の施設。地域に役立つ施設づくりをしていかなければ蜂ヶ谷園の発展はないと思っています。

そこで、本年4月より『地域連携室』を設けました。旧清水市社協を含め静岡市社会福祉協議会にて40年間活躍されていたベテラン職員を非常勤として採用。蜂ヶ谷園と地域のパイプを担ってもらっています。その一旦を紹介します。施設に隣接する自主的防災会。地震等の有事に備え、定例会や発電機等の機材の準備や保管、災害本部設営の訓練（これらはすべて蜂ヶ谷園を利用）を実施しています。職員との福祉避難所の開設訓練も昨年度より実施、今年度も既に実施しました。自主的防災会の事務局担当者からは「施設長はあてにならない（片道34kmの遠距離通勤のため）自分たちが蜂ヶ谷園を守る」と大変力強い言葉をいただいております。このような関係性をさらに深めていきたいと思ひます。

特別養護老人ホーム 蜂ヶ谷園 施設長 前田 万正

# 新しい仲間ご紹介

(84名) <会員番号 2204878~2204964>

- |  |  |  |   |   |  |
|--|--|--|---|---|--|
| <p>■富士・富士宮<br/>小野 恵美<br/>柏木 佑介<br/>村野 加奈<br/>太田 富美代<br/>矢部 一樹</p> <p>■駿東・田方<br/>今井 美保<br/>河野 雄毅<br/>渥美 芳子<br/>外岡 由喜江<br/>原田 佳成<br/>藤田 裕昭<br/>小野 貴子<br/>内田 藤愛<br/>佐藤 亮仁</p> | <p>相磯 健 一<br/>菊間 喜恵子<br/>石澤 さとみ<br/>佐々木 信<br/>青木 晴子<br/>東 由香里<br/>中嶋 航大<br/>山口 涼太<br/>重杉 千里</p> <p>■熱海・伊東<br/>佐藤 基樹<br/>齋藤 恵子</p> <p>■静岡市<br/>介護福祉士会<br/>櫻井 哲也<br/>大村 直希<br/>白鳥 剛行</p> | <p>小杉 泉 恵<br/>山 倫 正<br/>望 月 敬子<br/>若月 秀人<br/>斎藤 恵美子<br/>海野 沙由理<br/>勝山 美恵子<br/>越水 昌子<br/>吉井 美智子<br/>原 全 男<br/>鈴木 栄美<br/>増田 弘樹<br/>野呂 知未<br/>深澤 紀代美<br/>吉永 光太<br/>宮城 嶋彩<br/>西村 さおり</p> | <p>原美 帆<br/>岩 倉 円<br/>■志太・榛原<br/>前田 明美<br/>杉山 ルミ子<br/>五條 芳香<br/>飯嶋 諭以子<br/>佐藤 香織<br/>内田 三千江<br/>澤後 圭一<br/>吉田 真由美<br/>小 林 祐介<br/>服部 之子<br/>増田 江莉<br/>鈴木 隆雅<br/>菊地 広賜</p> | <p>■中東遠<br/>磯部 勇樹<br/>村松 敬祐<br/>曾根 業都美<br/>市村 笑子<br/>小島 佐由巳<br/>望月 浩</p> <p>■浜松<br/>高橋 伸枝<br/>日下部 百合子<br/>夏目 宏康<br/>小野田 ひろ美<br/>植田 裕太朗<br/>酒井 和江<br/>荒木 純一<br/>服部 由妃<br/>古橋 橋里美</p> | <p>加古 藤 純 子<br/>宇野 尚 子<br/>藤田 真也<br/>本郷 重紀子<br/>木村 さと子<br/>野上 友貴</p> |
|--|--|--|---|---|--|



## お知らせ

### 8月3日よりリニューアルしましたホームページはご覧になりましたか。

スマートフォン保有率100%に限りなく近い現状に伴い

- ①スマホからでも研修・講演会全ての申込みが可能になりました。（一部記載事項の多い研修はPCでの入力になりますが…）特にブロック活動は「スマホで申し込み後に直接会場へいく」という流れになることを目指しています。
- ②緊急時の対応はトップページやフェイスブックで周知します。
- ③活動報告もタイムリーに行っていきます。フェイスブックも気軽な投稿を心がけますので、シェアに協力お願いします。



# 研修・講座一覧

研修・講座名	日程	テーマ・内容	対象・会場等
次世代リーダー研修	11/13・12/11	介護現場のリーダーに対して職員虚有・職員指導、業務改善等リーダーが抱える不安を解消し、自身を持ってリーダー活動できるようリーダーシップを学びます。	ユニットリーダー・指導者等 講師：丸山先生
介護福祉士チームリーダー研修	11/5・12/6・1/29	リーダー業務に従事し始めた介護福祉士がリーダーの役割(尊厳を支えるケアの実践、チームケアの推進、運営管理)のうちメンバー業務からの視点の切替えが特に求められる「運営管理」に関する自らの成長課題とチームの課題を認識し、解決に取り組む意欲を高めると共にリーダーとしての悩みを相談しあえる人脈も得るために実施します。	①介護職の小チームや初任者等の指導係りに就いている人②県内の介護老人福祉施設、介護老人保健施設、グループホームの従事者 12名限定
身体拘束廃止推進員養成研修	9/26・10/4 1/21・22	権利擁護や身体拘束の意義を学び、自職場での実態を把握し、身体拘束廃止取組報告を行います。	身体拘束廃止の取組を施設内で指導的な立場で推進できる職員
介護福祉士国家資格取得対策講座(全国一斉筆記模擬試験&集中講座)4日間	①模擬試験前講座12/1 ②模擬試験12/8 ③フォローアップ講座12/21 ④本試験直前講座1/11	講師による過去問分析、受講生の学習効果をより高めるための資料作り、更に日本介護福祉士会主催の全国一斉筆記模擬試験も行い、その結果も踏まえ更に深掘りし、チーム一丸となって受験生の合格率アップに努めます!!!	国家試験受験予定者
「知的障がい者の特性と生活支援」研修	11/10	障がい分野においては、制度の谷間となり必要な支援が届きにくい状態になっています。それぞれの障がいの特性を理解し、ライフステージにあった適切な支援をうけることができれば、ひとり一人の能力を発揮することが可能です。行動面やコミュニケーションなどの課題を取り上げ、効果的なサポートのあり方について学びます。	福祉現場の職員/会場・浜松市福祉交流センター/講師：井川先生

※研修会講習会情報はホームページ (<http://shizukai.jp/>) でも御案内しています。



## 健康長寿フェローに認定される

## 小林副会長認定証授与式で満面の笑み!

去る7月25日県立大学草薙キャンパスにて、静岡県立大学健康長寿フェロー及び静岡県立大学地域みらいづくりフェロー認定証授与式が執り行われ、本会小林副会長が表彰されました。健康長寿フェローに医療や福祉関係者33名、地域みらいづくりフェローに俳優や宗教家、行政のまちづくり担当者ら多彩な顔ぶれ8名が選ばれた。学生の共有に貢献した社会人を対象に、学生に対して高齢者疑似体験講習会講師を担当、その時の熱心な講義が評価されました。今年も薬学部の学生対象に高齢者疑似体験のインストラクターが学校を訪問します。

※フェロー制度とは、同大の講座や調査研究で指導役を担当する専門家や指紋を登録する制度で豊富な知識を持つフェローの方々との連携を強化し、地域で学びの輪を生み出すことを目的としている。



## 介護技術コンテスト ～ケアコン2019～

### 11月9日(土) 開催決定!

テーマ「静岡発! 日本の介護技術 支える手・優しいまなざし・おもいやり」

毎年9月にツインメッセしずおかでケアフェスタの催事として開催していましたが、今年度は静岡県委託事業としての単独開催になります。単独での実施で初の試みですが、現在委員会では課題を作成中!まもなく競技者も募集します。皆様のご応募お待ちしております。今年は静岡市内の介護を学ぶJKの皆さんも参加予定。若いパワーで会場を盛り上げます!!食事・入浴・排泄部門の3部門で競います。最優秀賞、会長賞もあります。乞うご期待!会場はシズウエル703会議室(いつも研修で使用するいつものところ...盛り上がるよう皆さんご協力くださいね)

## 「介護の学舎2019 in 静岡」

～サテライト分校 in 掛川・竹の丸～

12月15日(日)13時からを予定。今年はサテライト分校として中東遠ブロック内の竹の丸で「癒しの空間で学ぼう!語ろう!」をテーマに開催。掛川城の郭で風情ある会場です。寺子屋をイメージして学びます。カリキュラムは4講座ですが、中身の濃い時間となるよう現在企画中です。皆さま学生気分学びましょ!!

## 地域密着型サービス外部評価事業について

本会では、利用者の視点にたちグループホームをより良くしていくための訪問調査機関として活動しています。この事業は下半期に調査が集中すること、今年は他調査機関の閉鎖に伴い、調査事業所数が拡大することから、9月より新規に田辺郁美さんが外部評価事業専任の事務を担うことになりました。よろしくお祈りします。また、事業拡大に対応するため次年度は、新規調査員養成研修を予定しています。ご興味がある方は協力下さいね!



## 編集後記

今年の梅雨は長く明け直後から連続の猛暑日「命の危険ある」という予報に危機感を持ちながらの現場ですね。そんな中、広島まで視察活動された災害対策委員の方々の投稿は、とても意義ある内容で、その情報を共有できることこそ会報誌の良いところ!と改めて感じました。7月6日に一周年式典が開かれ、「災害で失ったもの

があったが1,000人の中高生のボランティアが集まり若い力を得ることができた」とある市長。辛い経験をした地域の足場固めは急ピッチに進んでいます。

ところで、私は今年度から広報の仲間入り。早くもHPのリニューアルや催事の取材に予定は埋まり……暇ができれば車や電車、美味しいもん巡りと四季を感じる時間にも制限がかかりそう。(汗) (N.K)

